ひたすらに 一生懸命に みらいのゆうきをつくりたい

# 立川ひろとしのシセイ報告

**立川ひろとしのシセイ（結城市政・政治姿勢）報告**　2015.6.3 発行　No.02　発行：立川ひろとし後援会

〒307-0001 結城市公達9858-25　TEL 0296-33-5657　FAX 0296-54-4642 http://www.tacho-net.com/tacho　h_tachikawa@tacho-net.com

## 4/29 任期満了により市議会議員を退任しました

平成２７年４月２９日 をもって、任期満了により市議会議員を退任しました。３月議会 最終日（3/19）には議会終了後に退任挨拶もさせて頂き、関係する皆様に謝意をお伝えする機会も頂きました。

３期１２年、様々な方にご指導・ご支援を頂きながら活動を続けてきましたが、無事に一区切りを迎えることができました。この間、皆さまへの情報提供を第一にホームページ・ブログ・広報誌配布などの活動を継続してまいりましたが、今後は本誌のようなスタイルで、引き続き情報提供をしていきたいと考えております。

是非ご覧いただけますようお願い申し上げます。

## 5/14 改選後初の議会である臨時会を傍聴

改選後、初の議会である平成２７年 結城市議会 第１回 定例会を傍聴してまいりました。議会人事の決定を行う議会でもあり、また、私自身、ひとりの市民として傍聴席から議会を見るのも久しぶりであり、新鮮な気持ちで議会傍聴に望ませていただきました。

議会では、議長に 中田 松雄 議員、副議長に 秋元 昇 議員 が選出され、常任委員会・議会運営委員会・筑西広域市町村圏 事務組合議員・議会選出の監査委員も決定し、あたらしい陣容で議会がスタートされました。

私自身、まだ気持ちが抜け切れてないのか、議長からの「ご異議ございませんか」の問いに「異議なし」と言いそうになってしまい、気恥ずかしさを感じながらの傍聴となりました。

今期の議員さんのご活躍により、市議会がますます活性化することを願いながら市役所を後にしました。

## 投票率の低下は全国的な課題

今回（平成２７年）の結城市議会議員選挙の投票率は ５６．０８％ であり、前回（平成２３年）の結城市議会議員選挙の投票率 ５７．７６％ を下回る結果となりました。平成２３年の選挙では、東日本大震災によるガソリン事情を考慮し、遊説車を自粛する措置を行っておりましたので、それに比べて、今回の選挙は選挙を実施している認知度もあがり、投票率の回復を期待していただけに残念な結果となりました。

投票率の低下は全国的な課題であり、期日前投票制度の実施や、期日前投票所を駅などに設置して、通勤・通学者・若い方が投票しやすくする措置を行っている自治体もあります。また、体の不自由な方で投票所に足を運べない方などを対象に、郵便による不在者投票の制度もあります。（選挙管理委員会にて、あらかじめ手続きが必要）

結城市において考えてみると、前回と比べて期日前投票による投票が大きく伸びていますが、視点を変えると、前回は投票所で投票した方が今回は期日前投票を行ったため数字が移行したと捉えることもでき、引き続き、期日前投票の簡便さによる投票者数の向上とともに、選挙全体に関心をむける努力の必要性が見える結果と分析しています。

●前回と今回の市議会議員選挙における投票状況比較（単位は人）

| | 平成２３年 | 平成２７年 |
|---|---|---|
| 当日の投票所での投票 | ２１，５７１ | １９，１０６ |
| 期日前投票 | ２，６７５ | ４，０３０ |
| 不在者投票 | ２１２ | ２２６ |
| 合　　計 | ２４，４５８ | ２３，３６２ |

※不在者投票…老人ホーム・障害者支援施設・病院での投票、障がいを持つ方が利用できる郵便投票での投票、その他 一時的な滞在先での投票など

# ２つのアプローチにより自ら地方創生を語れる行政体を構築すべきと考えています！

## 提案１：地域担当職員の創設により、地域課題の『見える化』『早期解決の仕組みづくり』の実現

各地区の自治協力員さんと１：１で地域担当職員を割り当て、地域の課題を連携して解決する方法を提案します。職員さんにも役所内の業務に携わるほかに、地域に出向いて自治協力員さんと連携することにより、自治協力員さんと同じレベルで地域課題を把握してもらう事を目的としています。地域の課題は、担当職員を通じて市役所の担当課に繋ぎ、即、解決すべき課題のリストに組み込ませます。

そして、この取り組みは、行政がさらに一歩進んで住民の中にとけ込んでいく「前に出る協働」にもなります。各自治会の持っている潜在的な力を引き出すことも地域担当職員を導入する目的の１つです。

昨今、「地方創生」が語られていますが、行政が地域のことを理解していなければ、コンサルタントの作った画一的な計画に終わってしまい、地方創生が実現できなかった、という展開になりかねません。自治協力員さんと職員の連携により、市役所が地域の課題をしっかり把握することで、結城市に必要な地方創生の計画を自らの力で作ることができる組織体が求められています。行政のこのような能力は日頃から継続して地域と職員さんが連携していくことでしか維持できないものであり、早期にスタートすることが必要とも考えています。

## 提案２：全職員の工数（作業時間）管理を実施し、あるべき職員数を算出し、市役所業務の『見える化』の実現

過去、議員時代に、市役所の業務量と職員数の関連性について一般質問で取り上げましたが、職員数の妥当性を説明できる方は残念ながら誰もおりません。また、市役所内の部局間で業務量に応じた人員配置となっているかも解らない状況かと思います。

この点をきちんと調べて、各員が、毎日どの事業で、どんな業務内容を、どのくらい行っているのかを計測していき、その結果を積み上げ、係 ⇒ 課 ⇒ 部 ⇒ 市役所全体の業務量把握の基礎データとし、毎年の採用や、組織間の人員調整のデータとすべきと考えます。

よく工数管理を「リストラのための道具」と勘違いする方がおられますが、そういった考えのもとでの提案ではありません。減らすばかりが目的でなく、業務の状況や市の政策によって増える部署がでる場合も十分に考えられます。工数管理の結果から市役所の総業務量を把握し、そこからあるべき職員数を導き出し、毎年の採用を平準化することによって、市役所の職員総数を管理運営していくことを考えております。また、地方分権で上位機関から業務が下りてきた場合に、人を採用すべきか、臨時職員とすべきか、現行体制で乗り切るか、といった判断指数に使うこともできます。業務量と人員体制を「数値により見える化」することにより、業務効率の向上を図るとともに、常に市民の皆さんに説明できる状況を堅持することも必要と考えております。

## インターネットでの活動報告もぜひご覧ください！！

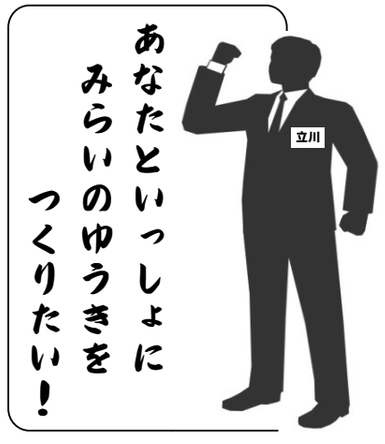
右記の FaceBoook、Twitter の私のページは利用登録をしなくてもどなたでもご覧いただけます。是非ご覧ください！

また、ＳＮＳ等によるご意見も大歓迎ですので、どんどんおよせください。よろしくお願いします！

**今すぐ検索！⇒** 立川ひろとし **検索**

HomePage http://www.tacho-net.com/tacho/

Blog http://tacho.blog52.fc2.com/

http://www.facebook.com/Hirotoshi.Tachikawa

twitter http://twitter.com/Tachikawa_Hiro